

## I. 講義のテーマと目標

この講義では、財務会計に関する事前の知識を前提とせず、企業が公表する財務諸表の内容とその分析方法を解説します。「会計は企業の言語である」という表現は様々な場所で用いられています。いかなる企業であっても会計なしに経営を行うことは不可能ですし、初見の企業を理解するためにも会計は有用なツールです。この講義では、アウトプットである財務諸表を作成することではなく、アウトプットされた財務諸表を分析することに主眼を起きます。そのため、「仕訳」、「借方」、「貸方」など、簿記に独特の用語はほとんど出てきません。

主たる受講者として以下の二つのクラスの人を想定しています。第 1 が会計についての基本的な用語程度は知っているが、財務諸表中の諸項目の意味や財務諸表の使い方について理解が十分ではないと感じられている方、第 2 が会計の知識は十分あると認識しているが、知識をリフレッシュしたいと感じられている方（そして周囲の皆さんの学習を助ける意欲を持っておられる方）です。

この講義においては、近年具体性を伴った問題となりつつある国際会計基準（IFRS）について多少は言及しますが、主たる課題とはしません。また、企業評価について時間の都合上取り上げることはできません。

## II. 教科書・参考書

テキストとして、桜井久勝著『財務諸表分析（第4版）』中央経済社、2010年を用います。これに加え、資料を配付していきます。

また、特に会計について全く知識を有さない方には事前に一冊でも財務会計に関する本を読んでおくことをお勧めします。その中でも、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門：企業活動を描き出す会計情報とその活用法〔第8版〕』有斐閣（有斐閣アルマ）、2011年、をおすすめしておきます。

## III. 授業計画

### 第1週（5月21日2限, #1） 財務諸表の入手

第1回目の授業では、財務諸表の入手について説明します。多くのテキストでは、会計とは何か、という大きなイメージの説明をもっとも最初に行いますが、まずは会計に対するイメージを空にして財務諸表を眺めてみることにします。講義では、三つの財務諸表の名称と、それぞれの示すものの概要をつかんだ後、これらの財務諸表の入手方法について説明します。

## 第2週（5月28日，#2,3） 財務会計の役割と仕組み，財務諸表の見方（1）

第2週および第3週では，現在公表される財務諸表が作成される時にしたがいなければならぬ構造とそのルールについて説明します。また，第1週に入手した財務諸表の見方を学んでいきます。第3週で対象とするのは貸借対照表です。貸借対照表の主要な項目，すなわち資産，負債，純資産について，そしてこれらの金額がいかにより評価されているかについて問題とされます。

## 第3週（6月4日，#4,5） 財務諸表の見方（2）

先週に引き続き，三つの財務諸表の見方について，実例を見ながら説明します。第3週で説明するのは，損益計算書（包括利益計算書）とキャッシュ・フロー計算書です。損益計算のステップ，そしてキャッシュ・フローと利益額の関係などが問題となります。

## 第4週（6月11日，#6,7） 会計方針・付属明細書の見方，財務諸表の連動性

営業報告や有価証券報告書などの決算書類には，財務諸表本体に加えて様々な追加情報を含む表が作成されています。分析を行う上で，これらの付属の諸表は重要な視点を追加してくれます。第4週の前半では，分析に役立つ諸表についての説明を行います。

前週までに説明した財務諸表は，それぞれ単独の表ではなく，相互に関連しています。このことを第4週の後半を用いて説明します。具体的にはある会社を出発点として，それぞれの仮想的な取引が財務諸表にいかなる影響を及ぼすのかを解説します。財務諸表の連動性を理解することは，予測財務諸表を作成し，それを企業評価にも散るための重要なステップです。

## 第5週（6月18日，#8,9） 財務諸表分析の基礎，財務諸表分析（1）

第5週から具体的な比率を用いた財務諸表分析を行います。ただし，いかなる分析でも目的がなければその結果の有効性は曖昧なものとなります。財務諸表分析を誰の視点で行うのかという点の重要性について説明し，第5週の後半ではテキストの順にしたがい収益性の分析を行います。

## 第6週（6月25日，#10,11） 財務諸表分析（2）

引き続き財務諸表の分析を行います。第6週で取り扱うのは生産性と安全性の分析です。企業の営利的側面は収益性によって評価されますが，企業を社会的な文脈に位置づけると生産性という側面が重要になってきます。そこで生産性について解説を行います。続いてが安全性の分析です。昨年，過去最高益を公表した企業が1年以内に倒産するという事例がいくつか生じました。収益性の面では問題がなさそうな企業でも倒産するとはどういうことでしょうか。後半では安全性という面から企業を分析する方法を説明します。

#### 第7週 (7月2日, #12,13) 財務諸表分析 (3)

財務諸表分析で残るのは、不確実性によるリスクの分析と成長性の分析です。不確実性は企業の業績にいかなる影響を与えるのでしょうか。例えば、売上高の小さな変化に対して利益額は大きく変動することがよく見られますが、それはなぜでしょうか。リスクを売上高、費用構造、レバレッジの側面から理解します。成長性とは、売上高の成長だけでなく、配当等の利益分配によっても影響されます。損益計算書の構造から成長とリスクの関係を概観し、サステナブル成長率などの概念についての解説を加えます。

#### 第8週 (7月9日, #14,15) 財務諸表分析の実例

最後に総まとめとして、財務諸表分析を主たるツールとした企業分析の発表会を行います。各チームが分析の結果を持ち寄り、議論を通じて企業分析における財務諸表分析の役割について再確認し、授業を終了したいと考えております。

#### **IV. 評価について**

毎回の出席 (25%), 加えて毎回課される課題 (50%), およびグループでの分析事例 (25%) の三つにより評価を行います。